

Covid-19 and International Politics

# 新型コロナウイルス

# と国際政治

新型コロナウイルスを巡っては米中の対立が繰り広げられたり、ワクチンをめぐるアクセス格差が生じたり、国際政治との関わりが浮き彫りになっています。歴史的にみて感染症の管理は、比較的協力しやすい分野であるにもかかわらず、なぜ新型コロナウイルスを巡っては対立が顕在化しているのでしょうか？一刻も早くにウィズコロナに導くためには、国際政治の観点からどのようなことが必要なのでしょう？本セミナーではこのようなことを考えてみたいと思います。

## ■報告者

詫摩 佳代 (東京都立大学法学部・法学政治学研究科 教授)

Kayo TAKUMA (Professor, Graduate School of Law and Politics / Faculty of Law, Tokyo Metropolitan University)



### 【著書紹介】

人類と病  
国際政治から見る感染症と健康格差

詫摩佳代 著

人類の歴史は病との闘いだ。ペストやコレラの被害を教訓として、天然痘を根絶し、ポリオを抑え込めたのは、20世紀の医療の進歩と国際協力による。しかしマラリアはなお蔓延し、エイズ、エボラ出血熱、新型コロナウイルスなど、新たな感染症が次々と襲いかかる。他方、現代社会では、喫煙や糖分のとりすぎによる生活習慣病も課題だ。医療をめぐる格差も深刻である。国際社会の苦闘をたどり、いかに病と闘うべきかを論じる。

2021 **1.28** Thu 17:00 - 18:00

会場

Zoom を利用したオンライン開催

以下の登録フォーム (<https://forms.gle/LRcwrnzhxco59VLn7>)

または QR コードより前日までにお申し込みください。

※参加用 Zoom リンクを当日正午までに E-mail アドレスにお送りします。

## ■主催

東京大学 東洋文化研究所、日本・アジアに関する教育研究ネットワーク

Institute for Advanced Studies on Asia (IASA), Network for Education and Study on Asia (ASNET), The University of Tokyo

## ■共催

科研費基盤研究 (A) イスラーム・ジェンダー学と現代的課題に関する応用的・実践的研究 (代表: 長沢栄治)

Research Project on Islam and Gender: Towards a Comprehensive Discussion

